

令和4年度 木城町立木城小中学校 学校評価

重点目標
I 学ぶ楽しさがあふれる学校
II やさしさとあいさつがあふれる学校
III 明るく元気があふれる学校
IV 働きやすくやりがいのある学校

評価は4段階評価

	具体的目標	方策	学校としての取組や反省	評価	学校運営協議会での意見	
I	1 わかりやすい授業の実践とフォローアップの徹底	① 実態把握の徹底と課題解決のための系統的・具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種テストの結果の分析を実施し、正答率の低い部分について復習の時間を設けるなどして定着に努めた。 ○ 小中相互乗り入れ授業や高学年の教科担任制を実施し、専門性を生かした授業を行うことで学習内容についての理解や興味・関心を高めることができた。 ○ 「めあて」と「まとめ」の整合性を意識して授業改善に取り組んだ。 ● 主体的な学習態度の育成に向けての取組を授業や行事等で進めたが、今後も継続した取組が必要である。効果の高い実践例を共有し授業改善につなげたい。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校になり、より9年間の連続した学びを実現し学力が向上していくことを期待する。 ・保護者の学力に関する期待値と、子供たちの満足度の間に差がある。 ・先生が授業の最初に提示する「めあて」が子どもにとっての「めあて」となっているのか振り返ることも必要ではないか。 	
		② 主体的な学習態度の育成				
③ 学力の定着を図る取組の推進						
④ 小中一貫のよさを生かした取組の推進						
2	地域との連携による教育活動の推進	① 地域の力を最大限に活かし、多くの人材・素材にふれさせる取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域コーディネーターと連携し、地域人材・素材を活かした授業実践を全学年で行うことができた。 ○ 地域とともに学校で育てたコスモスを地域に届ける活動や生涯学習のつどいと参観日の同日開催など地域と連携した実践を行うことができた。 ○ HPや学校だより等で学校の取り組みについて発信することができた。 ● 社会とつながる学校づくりについては今後一層職員意識を高めるとともに、地域や保護者との連携のあり方についても工夫・改善を図りながら、相互の理解を深めていきたい。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・テストで測れる学力とそうでない学力がある。数値にとらわれず、様々な面から学力をとらえる必要がある。人と人とのつながりの中で学ぶ事は大きいと思う。 ・大人が学ぶ姿を子どもに見せることも大切。今年の生涯学習の集いの取組のようにともに学んだり、一緒に読書をする取組が増えるとよい。 	
		② 社会とつながる学校づくりの推進				
		③ 家庭(保護者)との連携強化				
II	1 人間関係の醸成と人権感覚の育成	① いじめは絶対に「しない、させない、許さない、見逃さない」の指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめや人権についての指導については児童生徒に具体的かつ継続した指導を行うことができた。 ● 学校での取組を理解し、地域に広がっていくような周知や情報発信の方法についても工夫が必要である。 ● 教職員の人権に関する研修は、毎学期実施した。次年度も事例研修を通し迅速な対応や、適時・適切な指導の在り方等研修の充実を図り、人権感覚をさらに高めていきたい。 	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや人権に関しては、取組も実践し先生方、児童生徒の意識も高い。しかし、実際の生活の中まで落とし込めているのか気づけているのか今後も継続した指導をお願いしたい。 	
		② 人権や生命を大切に、共生社会の実現につながる実践の推進(より深い児童生徒理解と対応)				
		③ 教職員の人権感覚を高め続けるための手立てや充実				
	2	あいさつの意義・理解と励行	① 校内における取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学級・学年、委員会活動等であいさつ運動について工夫した取組を実践できた。 ○ 朝の会・帰りの会などの常時指導においてもあいさつについてふれることで児童・生徒の意識を高めることができた。 ○ 各家庭でもあいさつの励行に対する意識が高まってきている。また、PTAの交通立番指導でもあいさつ運動を行うことができた。 	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの評価は高いが、地域ではできていないところもある。普段顔を知らない挨拶もしない。交流の機会を多くもち顔見知りになることであいさつも広がっていくのでは。 ・PTAの挨拶立ち番も学校周辺だけでなく地域にひろげてはどうか。
			② 家庭・地域と連携した取組の推進			
	3	児童生徒の夢実現への基礎的な資質(社会性・市民性も含む)の育成	① ふるさと学習・キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふるさと学習・キャリア教育の年間指導計画の見直しや、核となる体験活動の充実を図ることができた。 ○ 毎月キャリア教育だよりを発行し家庭への啓発を図った。 ● 全体や学級の場で指導を行っているが、リハリス等公共の場でのマナーが守られていない状況がある。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習やキャリア教育もよい取組が行われている。地域としても協力することができた。 ・交通安全や公共施設でのマナーについては地域でも積極的に声掛けを行ってほしい。
② 各教科・特別活動におけるキャリア教育の視点や系統性を意識した指導・支援の充実						
③ 児童生徒の社会性・市民性の育成						

	具体的目標	方策	学校としての取組や反省	評価	学校運営協議会での意見
III	1 児童生徒が安心して学校生活をおくる手立て及び環境の充実	① 児童生徒が自ら考え行動する力の育成	○ 感染症対策については各々が実践を行うことが定着してきている。 ○ 小中学生と一緒にグラウンドを使う上でどうしたら安全に遊べるか、中学校の生徒会を中心に考え、ルール作りを行う事ができた。 ● 廊下歩行や昼休みの遊び方など、自分で安全面を考えて行動できずケガにつながるような事例があった。	3.3	・ 薬物乱用防止教室に参加したが大変わかりやすい内容であった。 ・ 防災については、地域も団結し取組むことが大切である。公民館活動の充実や安心・安全なまちづくりにもつながる。
		② 新型コロナウイルス感染症対策の対応継続			
		③ 校内での児童生徒の生活に対する指導・支援の見直し			
III	2 発達段階に応じた体力向上の手立ての実践	① 体力の現状分析と体力向上策の推進(部活動・社会体育等との連携推進)	○ 部活動指導員の協力により、社会体育等との連携を図ることができた。 ○ 廊下に握力計を置き、握力を意識させたり、ソフトボール投げのコツをつかむ自作教材を紹介するなど、児童生徒の体力の分析に基づいた日々の継続的な活動を行うことができた。 ● 日常的に体力向上につながるような手立てを示し家庭との連携を図った取組を推進していく必要がある。	2.8	・ 持久走大会では、子どもたちが最後まで頑張っている姿を見ることができた。 ・ 部活動地域移行については県の方針等も踏まえ進める必要がある。人材確保の問題もある。 ・ 木城町の子どもたちの体力低下に問題意識をもち、体力向上をはかる手立てを委員としても意識したい。大学等との連携も町としてすすめていきたい。
		② 日々身体を動かすことを楽しみながら体力向上につながるアイデア等の共通実践			
IV	1 健康第一 風通しのよい職場環境	① 無理をしない、無理をさせない、見逃さない体制	○ 会の精選、業務の精選を行うことができた。 ○ 職員同士がよく声を掛け合い、助け合いながら業務を行う姿がよく見られる。今後も業務の効率化をはかるよう工夫・改善をしていく。 ● 業務改善、働き方改革にかかわる取組については今後も継続した取組が必要である。	2.8	・ 地域でできることは協力していきたい。
		② オン・オフの切り替え			
		③ 相談し合い支え合う職場づくり			
IV	2 チーム木城小中学校としての対応	① 専門性を生かした取組	○ 小中の職員がそれぞれ協力して、専門性を生かした研修を行ったり、実践事例の報告による情報交換や教材を共有化したりすることができた。 ○ 町の補助金を活用し、研修会を実施するなど教員としての資質を高めるための取組を推進することができた。	2.8	
		② 学び続ける存在(師弟同行)			

【次年度の方向性についての校長所見】

3つの部会に分かれて協議することで、これまでよりも参画しやすい学校運営協議会となった。次年度も部会制での開催とするが、部会別に出た意見や取組の全体での共有や意見交換を行う場の工夫が必要である。また取組内容によっては中長期的なスパンでの目標設定や地域との協議による取組をさらに具現化できるような協議の方法を設定したいと考える。今後も、地域、家庭、学校が一体となって木城の子どもたちの健全育成のために、みどりの杜木城学園の校是「夢を抱き元気なあいさつと笑顔があふれ子どもたちの生命と瞳が輝く学校づくり」の実現を図りたい。